



平成30年度

学校評価報告書

帝塚山幼稚園



学校法人帝塚山学園

平成 30 年度学校評価について

帝塚山幼稚園は、平成 30 年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、保護者を対象としたアンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山幼稚園
園長 塚本 真紀

1. 総括

建学の精神	「社会に有為な人材を育成する」	
本園の重点目標 (教育目標)	「生きる力の基盤と学びの基礎の育成」 “一人ひとりの個性を大切にし、気品と礼節のある子ども、 強健な身体と豊かな感性、自律的精神をもつ子どもを育成する。”	
前年度の成果と 課題	<p>[成果]</p> <p>本園独自の取り組みである四季の自然を主軸とした教育カリキュラムにより園児の個性を尊重し、豊かな感性と創造性を育む教育を実践した。</p> <p>[課題]</p> <p>園児ひとりひとりの個性を伸ばし、主体的な学びを実践する教育を今後も追求し、園児がたくましい心身を備え、豊かな創造性を発揮できるよう、今後も教員が学び続ける向上心をもつように努める。</p>	
本年度の重点目標	具体的目標	総合評価
1. 保育内容の充実と 特色ある保育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育目標の共有化 ② 自然教育の推進・質の向上 ③ 道徳心と豊かな情操の涵養 ④ 強健な身体を養うための教育の実践 ⑤ 子育て支援事業の充実強化 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>保育内容の充実と特色ある保育の実践に関しては、四季の自然を主題にした自然教育を充実させた。本園独自の教育課程による活動に対しては、公開保育研究会を実施し、園外の教育従事者約120名からの研究保育に対する批評や講評を教育現場にフィードバックし、教員の指導力向上、更に保育内容の質の向上にも努めた。</p> <p>また、園児の心身の健やかな成長を目的とした食育活動を、併設の帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科の協力を得て、各家庭と連携しながら充実させた。今後も保護者の理解のもと継続的に取り組み、さらなる内容の発展に努める。</p> <p>2歳児教育については、募集定員を上回る志願者を得られた。しかし、幼稚園の園児募集に関しては、2歳児教育からの入園者は増加したものの、結果としては募集定員を充足させることができなかった。募集定員を充足するべく今後も教育連携室の協力を得ながら学園内の教育連携をアピールポイントにして、広報活動を展開していく。</p> <p>帝塚山小学校への明確な内部推薦制度と幼小の教育連携による活発な活動の結果により保護者の小学校教育理解が深まり、内部進学率は上昇した。小学校教育への円滑な連携を図れるよう、小学校英語科に繋がるEnglish Timeを定期的実施した。また、園内研究会での意見交流などを通して小学校教員の幼稚園教育内容への理解に繋げた。今後も引き続き実施し、さらに連携強化を目指す。</p>
2. 教育連携の強化	○ 各学校との積極的連携	
3. 教員の意識改革 ・行動改革推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究・研修の推進・充実 ② 学校評価の実施・教員評価の実施推進 ③ 幼稚園リスクの対策強化 ④ 財政健全化策の強化 	
4. 園児募集活動の強化	○ 広報活動の充実と効果的な募集活動の展開	

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

2. - ① 自己評価（教育活動に関するもの）

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
教育目標	教育目標の明確化	建学の精神と幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい「生きる力を育み、豊かな心を育てる」という教育目標を設定、周知のうえ実行する。	A	A	4月の職員会議において、本園独自の教育目標を設定・確認のうえ、全教員が共通理解のもと教育活動を実践した。	できるだけ早期に年度の具体的な教育目標を設定し、共通理解を図り実践する。
	教育目標の周知	園の教育目標を保護者に各学期ごとに周知を図る。	A		園の教育目標を全クラス保護者会、育友会総会や各学期の保護者会で伝えるとともに、月ごとに掲げた目標を園便りを通じて周知した。	今後も、「園便り」や「クラス便り」、「てぶきッズ便り（園長室便り）」を通じて周知する。
指導計画の作成	指導計画の充実	教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成する。	A	A	進捗状況に応じて、修正を加えながら年間指導計画を確実に実行した。	今後も、園児の実態に即して修正ができるよう柔軟性のある指導計画を作成する。
	五感教育の推進	園外での直接体験や本物体験を含め五感教育に取り組む。（各学期複数回）	A		教育内容に即した年12回の園外保育を実施し、直接体験による五感教育の実践に取り組んだ。	今後も教育内容に即した本物体験を、意識して積極的に取り入れていく必要がある。
	自律を促す指導の推進	規則正しい生活習慣の定着と道徳心の養成に向けての指導を定期的に行う。（年10回実施）	A		年間を通じて、園児の実態に応じた指導を毎月1回、年12回行った。	計画と修正を繰り返しながら、今後も実態に即した指導を行う必要がある。
研修	研究保育の実施	外部講師を招聘し、計画的に園内研究保育を行う。（年10回実施）	A	A	外部講師を招いた園内研究保育を年間11回実施した。	今後も研究保育を継続実施し、研究課題達成に向けて研鑽に努め、教員一人ひとりの教育力の向上を目指す。
	公開保育の実施	公開保育を実施し、外部者からの評価を教育の現場に活かす。（年1回実施）	A		3学期に、約120名の幼児教育従事者の参加のもと、外部講師を招いた公開保育研究会を実施した。	今後も公開保育を継続実施し、更なる園教育の充実と発展を図る。
	研修成果の共有	各学期に参加した外部研修の成果を内部研修などで発表し、教職員の共通理解を図る。（延べ18回参加）	A		各教員が参加した延べ20回以上の外部研修で得た知見を都度報告し合い、教員のスキルアップに努めた。	今後も教員全員が幅広い内容の研修機会をもてるように計画し、成果を共有できるようにする。
教員評価	教員評価の推進	教員の自己評価の実施と教員の園長による個別面談の実施。	A	A	教員の自己評価結果を全教員間で共有し、個人や園の課題を再確認した。	今後も教員の自己評価を実施し、個人の課題等については園長との面談により明確にしていく必要がある。

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
教育連携・内部進学	小学校との連携推進・内部進学の充実		A		小学校教員によるEnglish Timeを計画通り実施し、年長児だけでなく、それぞれの学年が小学生との交流機会をもつことができた。帝塚山小学校教育への理解も増し、内部進学率は約81%だった。	帝塚山小学校との交流については内容を今後も検討し、今後English Timeを通して英語科の幼小連携カリキュラムを作成する。
	大学との連携推進	① 研究・研修の推進・充実 ② 学校評価の実施・教員評価の実施推進 ③ 幼稚園リスクの対策強化 ④ 財政健全化策の強化	A	A	大学学長による講演会や、帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科学生による園児と保護者に向けての食育活動の実施、運動会や育友会行事を通じて同学部こども学科の学生との交流活動も行い、積極的な教育連携に取り組んだ。	今後も園児やその家庭の実態にあわせて大学との教育連携に積極的に取り組み、園児、学生が共に学び合える機会を持てるようにする。
	各学校との情報共有		A		幼稚園の園内研究会に小学校の教員が複数回参加し、実際の園教育について意見交換したことで、幼稚園児の成長段階への理解を深めてもらう機会が持てた。	各学校の情報を積極的に得ると同時に、幼稚園に関しても今後も継続して各学校に理解してもらえるように努める必要がある。

評価は4段階【A：十分である(よくできた)、B：ほぼ十分である(できた)、C：あまり十分でない(あまりできなかった)、D：改善を要する(できなかった)】

2. - ② 自己評価 (学校経営に関するもの)

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
組織運営	教育目標の共有	園長の指導のもと、教育目標の周知を毎学期毎行う。(年3回実施)	A	A	月1回以上の職員会議でその都度教育目標の周知を図った。	具体的に教育目標を運営に生かしていく方法について、さらに検討する必要がある。
	組織体制の整備	園務を教務部、入試広報部、環境部に分掌し、適切な運営とその責任体制を整備する。	A		園の実態に即した園務組織に整備して運営を行い、年2回の中間報告を実施し、全教員間で内容を共有した。	役割と分掌についてより園の実態に即した整備について検討が必要である。
安全管理	学校安全計画の立案・実行	安全管理体制の構築のため学校安全計画を立て、実行する。(複数回実施)	A	A	平成30年度学校安全計画に沿い、2歳児教育園児も含めて避難訓練を合計5回実施した。また、学園前キャンパスの一斉避難訓練も実施した。	これからも幼稚園、2歳児教育、全園児の実態に応じて内容を検討していく必要がある。
	危機管理マニュアルの整備	日常の安全点検・月1回の園内安全点検を充実させ、危機管理マニュアルの周知を行う。(年10回実施)	A		環境部により月1回、年12回の安全点検を行った。	今後も定期的な施設設備安全点検を行い、適切な処置を行う必要がある。
保健管理	保健機関との連携	地域保健・医療機関との連絡体制を整え、各学期1回程度の指導を受ける。(複数回実施)	B		各学期1回、年3回、地域保健・医療機関との連携を図りながら、保健管理を行った。	組織的な連絡・協力体制を構築する必要がある。
	学校保健計画の立案・実行	学校保健計画を作成し、確実に実施する。	A	A	平成30年度学校保健計画通りに実施することができた。	これからも幼稚園、園児の実態に応じて内容を見直し、柔軟に実施していく必要がある。
	保健管理の充実	園児の健康管理や怪我等に速やかに対応するとともにアレルギーについてのマニュアルに沿い実施する。	A		全職員を対象にエピペンやAED等の取扱講習を行い、健康管理の意識を高めた。	今後も継続実施する。

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
情報管理	個人情報の管理徹底	個人情報の保護、管理を周知徹底する。	A	A	園児の個人情報を適切に保護・管理した。また、職員間でも詳細な確認作業を行った。	今後もパソコンによる業務を慎重に行うなど、個人情報管理について教職員の意識向上に努める必要がある。
	適正な情報の保管	公文書を安全に管理、保管する。	A		職員会議等で、園内外の情報を共有するとともに、情報管理の徹底を図った。	今後も徹底した管理と保管について励行が必要である。
保護者との連携	育友会との連携	育友会と互いに協力し合うとともに、連携を緊密にし、育友会主催行事を実施する。(複数回実施)	A	A	帝塚山小学校との幼小合同花火大会及び幼小合同バザーの2件の育友会行事を実施し、保護者との連携を深めた。	今後も密に連携していく必要がある。
	保護者ニーズの把握	保護者アンケートを実施し、保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	A		学期末の個人面談で受けた保護者からの要望等について担任と園長補佐が中心となり改善を図り、内容によっては全教職員間で共有した。又、年度末に保護者アンケートを実施した。	保育内容について高い満足度は維持できたが、今後も保護者に向けて丁寧な対応が必要である。
情報提供	教育情報の発信	園便り等で幼稚園の情報や教育内容を、毎月1回発信する。(年10回発信)	A	A	毎月1回、年12回の「園便り」に加え、各学期ごとの「てぶきッズ便り」を通して詳細な情報発信に努めた。	今後も「園便り」と「てぶきッズ便り(園長室だより)」の発行を継続実施する。
	きめ細かな情報提供	「クラス便り」を発信して、情報を共有する。(月2回発信)	A		担任からのお知らせやお願いを「クラス便り」に盛り込んで年間50回以上発信した。	今後も「クラス便り」の発行を継続実施し、きめ細やかな情報発信に努める。
	ホームページの活用	幼稚園教育や活動など、ホームページの更新に努める。(週1回以上更新)	A		2歳児教育、幼稚園とも保育日は、ホームページのニュース&トピックスをほぼ毎日更新するとともに、動画による園児の活動の発信も積極的に行った。	園の日常の保育活動についての情報を今後も効果的に発信するように努める。
子育て支援	子育て支援の充実	子育て支援講座の年1回の定期的実施や保護者の子育てに関する相談窓口を設ける。	A	A	小学校との合同子育て支援講座を実施し、好評を得た。また、子育てに関する相談窓口を明確にし、柔軟に対応した。	今後も保護者のニーズに応えるべく、子育て支援講座を継続実施する。
預かり保育	預かり保育の充実	園児、保護者の実態を見ながら、通常保育期間に加え、長期休業中についても年間20日以上、預かり保育を行う。(実施日数)	A	A	預かり保育は、園児の安全を最優先にして保護者のニーズに応えるべく実施した。また、長期休業中の預かり保育は20日行った。	今後も預かり保育を継続実施する。
園児募集・広報	広報活動の強化	体験保育や発表会等の広報を、子どもや保護者に効果的な案内を行い、幼稚園に対する親密感を感じていただく。(参加者数延べ90人以上)	B	B	保育参観や園児発表、年長児と触れ合う体験保育を実施し、親密感を持ってもらった。参加者数は延べ80人だった。(2歳児教育園児は除く)	今後も体験保育の内容と時期について吟味していく。教育連携室の協力を得ながら、更に効果的な広報活動の内容を検討する。
	外部入試説明会への積極参加	外部の入園説明会に参加する。(3~5回以上の参加)	B		合計4回の外部説明会に参加し、出願につなげる努力を行ったものの、募集定員を充足させることができなかった。	幼児教室等との連携も交えて積極的に情報を得られるように働きかけていく必要がある。
	個別見学への対応	各募集行事についての情報を適時に更新するとともに、園案内の送付も継続的に行う。また、年間通じて個別の園見学を実施する。(参加者数延べ80人以上)	A		ホームページを通じて幼稚園を知った個別の見学者に対し、きめ細やかな園案内や教育内容の説明を行った。新入園児以外に途中編入者もあった。2歳児教育については募集人数より上回る志願者があった。	今後も個別の対応を丁寧に実施し、募集人員の充足につなげていくように努める。

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
学校評価	学校評価の推進	学校評価を実施し、その結果により教育活動、学校運営の改善工夫に継続的に取り組む。(総合評価「A」確保)	A	A	平成29年度学校関係者評価を実施し、総合評価「A」を確保するとともに、その結果を可能な限り数値化し、平成30年度園運営や教育内容の見直しに役立てた。	学校関係者評価を適切な時期に継続実施し、その結果をもとにして、今後益々園運営や教育内容の改善に努める必要がある。
学校運営	予算執行の適正化	経費のうち、特に印刷費の節約を図る。(印刷費10%節減)	A	A	策定された「財政健全化計画(小学校・幼稚園編)」について全教職員が理解し、特に事務費の削減に努めた。	今後も教職員一同協力して、物件費節約に努める。

評価は4段階【A：十分である(よくできた)、B：ほぼ十分である(できた)、C：あまり十分でない(あまりできなかった)、D：改善を要する(できなかった)】

3. 学校関係者評価

意見	改善方策
① 年間指導計画をしっかりと行っていることは評価される。	① 今後も子どもの様子に合わせて、柔軟に年間計画を立てていきたい。
② 外部講師を招いて園内研究会や公開保育研究会を行い、教員の資質向上を目指し、研鑽されていることは評価される。	② 今後も個々の教員の資質向上を目指し、子どもの健やかな成長に繋げていくことを園の課題としていきたい。
③ 幼小連携として、小学校の英語科教員が幼稚園の英語を指導したり、幼稚園と小学校の教員が互いの研究会に参加したり、小学校との連携がスムーズに進んでいると考えられる。	③ 今後も小学校との連携をより密に深めていきたい。
④ 食物栄養学科やこども学科との教育連携に積極的に取り組んでいる。教育の目標に「自立」を掲げているので、運動会の手伝いを年長児がするなど考えてはどうか？	④ 園の教育目標である「自立」をより保護者や外に向けてアピールしていくためにも、前向きに検討していきたい。
⑤ 園児募集・広報活動を行っているが、募集定員を充足していないのでB評価である。園児が多く来る地域で保護者の送迎の負担が大きく、入園を断念しているケースがあるから、職員の送迎の範囲を広げ、園児募集に繋げることも視野に入れてはどうか？また、預かり保育の内容の充実化の検討と、こども学科の学生がボランティアで入ることも検討してはどうか？	⑤ 保護者目線での貴重なご意見を戴いたので、今後も前向きに検討していきたい。
⑥ 自然教育を掲げているが、「五感を育てる保育の良さ」が外に向けてうまく伝えられていないと思われる。伝えていくことを考えてみてはどうか？	⑥ 園の特色である自然教育の良さをクラス便り、園便り、てづキッズ便り等で、より明確に保護者や外部に向けて発信していきたい。また、教育連携室の協力も得て、積極的な広報活動に取り組みたいと思う。